

庄・蔵本遺跡第 27 次調査から出土した 弥生時代の木製品類の樹種

能城修一*・村上由美子**・小林和貴・鈴木三男***

* 森林総合研究所木材加工・特性研究領域

** 京都大学総合博物館

*** 東北大学植物園

1. はじめに

徳島県徳島市庄町・蔵本町の徳島大学構内に所在する庄・蔵本遺跡の第 27 次調査（立体駐車場新営地点）から出土した弥生時代前期末～後期の木製品類の樹種を報告する。当遺跡は眉山の北麓の鮎喰川の扇状地上に位置しており、木製品類は第 27 次調査の旧河道 S263 を中心とする遺構から出土した。検討した資料は、鋤鍬や、建築材、板材を中心として合計 159 点である。

2. 試料と方法

樹種同定は、木取りを観察した後、木製品類は出土木材から直接、自然木はブロックサンプルから、片刃カミソリをもちいて横断面、接線断面、放射断面の切片を切り取り、それをガムクロラール（抱水クロラール 50g、アラビアゴム粉末 40g、グリセリン 20ml、蒸留水 50ml の混合物）で封入しておこなった。各プレパラートには TKM-30～188 の番号を付して標本番号とした。標本は、森林総合研究所の木材標本庫に保管されている。

3. 同定結果

同定不能のものを除いた試料 159 点中には、針葉樹 8 分類群と広葉樹 22 分類群、タケ亜科？ 1 分類群の計 31 分類群が認められた（表 1）。以下には、各分類群の解剖学的な記載をおこない、代表的な標本の光学顕微鏡写真を載せて同定の根拠を示す。

1. モミ属 *Abies* マツ科 図 1: 1a-1c（枝・幹材、TKM-112）

垂直・水平樹脂道をともし欠く針葉樹材。早材から晩材への移行は緩やかで晩材の量は多い。放射

組織は柔細胞のみからなり、柔細胞には単壁孔が著しく、垂直壁は結節状を呈する。分野壁孔はごく小型のスギ型で1分野に2～3個。

2. ツガ属 *Tsuga* マツ科 図1:2c (枝・幹材、TKM-69)

垂直・水平樹脂道をともに欠く針葉樹材。早材から晩材への移行は緩やかで晩材の量は多い。放射組織は柔細胞と放射仮道管からなり、柔細胞には単壁孔が著しく、垂直壁は結節状を呈する。分野壁孔はごく小型のスギ型～トウヒ型で1分野に2～4個。

3. イヌマキ属 *Podocarpus* マキ科 図1:3a-3c (枝・幹材、TKM-53)

垂直・水平樹脂道をともに欠く針葉樹材。早材から晩材への移行は緩やかで晩材の量は少ない。樹脂細胞が年輪内に密に均一に散在し、水平壁は平滑。分野壁孔はごく小型のトウヒ型で1分野に2～3個。

4. コウヤマキ *Sciadopitys verticillata* (Thunb.) Siebold et Zucc. コウヤマキ科 図1:4c (枝・幹材、TKM-64)

垂直・水平樹脂道をともに欠く針葉樹材。早材から晩材への移行は緩やかで晩材の量はやや多い。放射組織は柔細胞のみからなり、分野壁孔は孔口が横に大きく開く窓状で1分野に普通1個。

5. ヒノキ *Chamaecyparis obtusa* (Siebold et Zucc.) Endl. ヒノキ科 図1:5a-5c (枝・幹材、TKM-37)

垂直・水平樹脂道をともに欠く針葉樹材。早材から晩材への移行は緩やかで晩材の量は少ない。早材の後半から晩材に樹脂細胞が疎らに散在する。分野壁孔は中型のトウヒ型で1分野に2個。

6. スギ *Cryptomeria japonica* (L.f.) D.Don ヒノキ科 図1:6a-6c (枝・幹材、TKM-38)

垂直・水平樹脂道をともに欠く針葉樹材。早材から晩材への移行は緩やかで晩材の量は多い。樹脂細胞が早材の終りから晩材に疎らに散在する。分野壁孔は孔口が水平にちかく開くごく大型のスギ型で1分野に2個。

7. イヌガヤ *Cephalotaxus harringtonia* (Knight ex Forbes) K.Koch イヌガヤ科 図1、2:7a-7c (枝・幹材、TKM-51)

垂直・水平樹脂道をともに欠く針葉樹材。早材から晩材への移行は緩やかで晩材の量は少ない。樹脂細胞が年輪内に密に均一に散在する。仮道管の内壁にはらせん肥厚がある。分野壁孔は小型のトウヒ型で1分野に2個前後。

8. カヤ *Torreya nucifera* (L.) Siebold et Zucc. イチイ科 図2:8a-8c (枝・幹材、TKM-52)

垂直・水平樹脂道をともに欠く針葉樹材。早材から晩材への移行は緩やかで晩材の量は少ない。仮道管の内壁には2～3本ずつ走るらせん肥厚がある。分野壁孔は小型のヒノキ型で1分野に2個前後。

9. クスノキ *Cinnamomum camphora* (L.) J.Presl クスノキ科 図2:9a-9c (枝・幹材、TKM-125)

大型～小型で丸い道管が単独あるいは2～3個複合して年輪内で小型化しながら疎らに散在する半環孔材。道管の穿孔は単一。周囲状の木部柔組織と放射組織には大型の油細胞をもつ。放射組織は異性で2～3細胞幅、しばしば層階状に配列する。

10. クスノキ科 Lauraceae クスノキ科 図2:10a-10b (枝・幹材、TKM-153)

中型で厚壁の丸い道管が単独あるいは2～3個複合して疎らに散在する散孔材。道管の穿孔は単一。

周囲状の木部柔組織と放射組織には油細胞をもつ。放射組織は異性で2細胞幅位。

11. サクラ属 (広義) *Prunus s.l.* バラ科 図2:11a-11c (枝・幹材、TKM-98)

小型で丸い道管が単独あるいは2~3個複合して放射方向~斜め方向に連なる傾向をみせて散在する散孔材。道管の穿孔は単一。放射組織は異性で4細胞幅位。

12. バラ属 *Rosa* バラ科 図2:12a-12b (枝・幹材、TKM-89)

中型~小型で丸い道管が単独あるいは2~3個複合して年輪内で小型化しながら散在する半環孔材。道管の穿孔は単一。放射組織は同性で5細胞幅位、高さ4mm以上。

13. ケンボナシ属 *Hovenia* クロウメモドキ科 図2、3:13a-13c (枝・幹材、TKM-63)

大型で丸い道管が単独あるいは2個複合して年輪のはじめに1~2列配列し、晩材では徐々に小型化した厚壁の道管が単独あるいは2~4個放射方向に複合して散在する環孔材。道管の穿孔は単一。放射組織は異性で4細胞幅位。

14. ニレ属 *Ulmus* ニレ科 図3:14a-14c (枝・幹材、TKM-121)

やや大型で丸い道管が単独あるいは2個複合して年輪のはじめに3列ほど配列し、晩材では徐々に小型化した道管が集まって接線方向の帯をなす環孔材。道管の穿孔は単一。放射組織は同性で6細胞幅位。

15. ケヤキ *Zelkova serrata* (Thunb.) Makino ニレ科 図3:15a-15c (枝・幹材、TKM-140)

大型で丸い道管が単独で年輪の始めに1列に断続的に配列し、晩材では急に小型化した道管が集まって塊をなし斜めに連なる傾向をみせる環孔材。道管の穿孔は単一で、小道管の内壁にはらせん肥厚がある。放射組織は上下端の1列が直立する異性で8細胞幅位、直立部にはしばしば大型の菱形結晶をもつ。

16. ムクノキ *Aphananthe aspera* (Thunb.) Planch. アサ科 図3:16a-16c (枝・幹材、TKM-91)

中型~小型で厚壁の丸い道管が単独あるいは2~3個放射方向に複合して年輪内で小型化しながら疎らに散在する散孔材。道管の穿孔は単一。木部柔組織は晩材で翼状~連合翼状。放射組織は異性で4細胞幅位、直立部にはしばしば菱形結晶をもつ。

17. エノキ属 *Celtis* アサ科 図3:17a-17b (枝・幹材、TKM-114)

やや大型で丸い道管が単独あるいは2個複合して年輪のはじめに2列ほど配列し、晩材では徐々に小型化した道管が集まって斜めに連なる傾向をみせる環孔材。道管の穿孔は単一。放射組織は異性で10細胞幅位、鞘細胞をもつ。

18. イヌビワ *Ficus erecta* Thunb. クワ科 図3:18a-18c (枝・幹材、TKM-138)

小型で丸い厚壁の道管が単独あるいは2~5個放射方向に複合して疎らに散在する散孔材。道管の穿孔は単一。木部柔組織は数細胞幅の帯状。放射組織は異性で3~4細胞幅位。

19. クワ属 *Morus* クワ科 図2、3:19a-19c (枝・幹材、TKM-163)

大型で丸い孤立道管が年輪のはじめに1~2列配列し、晩材では徐々に小型化した道管が数個集まって丸い塊をなして斜めに連なる傾向をみせる環孔材。道管の穿孔は単一で、小道管の内壁にはらせん肥厚がある。放射組織は異性で6細胞幅位。

20. ツブラジイ *Castanopsis cuspidata* (Thunb.) Schottky ブナ科 図4:20a-20c (枝・幹材、TKM-

118)

やや大型で丸い孤立道管が数個ずつ集まって年輪の始めに断続的に配列し、晩材では徐々に小型化した孤立道管が火炎状に配列する環孔材。道管の穿孔は単一。木部柔組織はいびつな接線状。放射組織は同性で、単列の小型のものゝ集合状～複合状の大型のものゝからなる。

21. スダジイ *Castanopsis sieboldii* (Makino) Hatus. ex T. Yamaz. et Mashiba **ブナ科** 図 4 : 21a (枝・幹材、TKM-174)

ツブラジイにゝる環孔材で、放射組織は単列のものゝのみからなる。

22. イチイガシ *Quercus gilva* Blume **ブナ科** 図 4 : 22a (枝・幹材、TKM-88)

直径 220 μ m 以上の大型で丸い孤立道管が放射方向に配列する放射孔材。道管の穿孔は単一。木部柔組織はいびつな接線状。放射組織は同性で、単列の小型のものゝ複合状の大型のものゝからなる。

23. コナラ属アカガシ亜属 *Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis* **ブナ科** 図 4 : 23a-23c (枝・幹材、TKM-49)

イチイガシにゝる放射孔材で、道管径は 200 μ m 以下。

24. アカメガシワ *Mallotus japonicus* (L.f.) Müll.Arg. **トウダイグサ科** 図 4 : 24a-24c (枝・幹材、TKM-116)

中型で丸い道管が単独あるいは 2～3 個複合して年輪の始めに 1～2 列断続的に配列し、晩材では急に小型化した厚壁で丸い道管が単独あるいは 2～4 個放射方向に連なって散在する環孔材。道管の穿孔は単一。木部柔組織は晩材で接線状。放射組織は異性で単列かときに 2 細胞幅。

25. サカキ *Cleyera japonica* Thunb. **サカキ科** 図 4、5 : 25a-25c (枝・幹材、TKM-78)

ごく小型で角張った孤立道管が均一に密に散在する散孔材。道管の穿孔は 30 段ほどの階段状。放射組織は単列異性。

26. カキノキ属 *Diospyros* **カキノキ科** 図 5 : 26a-26c (枝・幹材、TKM-147)

中型で厚壁の丸い道管が単独あるいは 2～3 個放射方向に複合して疎らに散在する散孔材。道管の穿孔は単一。木部柔組織は接線状。放射組織は異性で 2 細胞幅、層階状に配列する。

27. ツバキ属 *Camellia* **ツバキ科** 図 5 : 27a-27c (枝・幹材、TKM-66)

小型～ごく小型の孤立道管が年輪内で小型化しながら均一に密に散在する散孔材。道管の穿孔は 10 段前後の階段状。放射組織は異性で 2 細胞幅、直立部にしばしば大型の菱形結晶をもつ。

28. トネリコ属シオジ節 *Fraxinus* sect. *Fraxinaster* **モクセイ科** 図 5 : 28a-28c (枝・幹材、TKM-132)

大型で丸い道管が単独あるいは 2～3 個複合して年輪の始め 2 列ほど配列し、晩材ではやや急に小型化した厚壁の道管が単独あるいは 2～3 個複合して疎らに散在する環孔材。道管の穿孔は単一。木部柔組織は晩材で翼状～連合翼状。放射組織は同性で 2 細胞幅。

29. ニワトコ *Sambucus racemosa* L. **レンブクソウ科** 図 5 : 29a-29c (枝・幹材、TKM-97)

小型で丸い道管が単独あるいは 2～3 個複合して斜め～接線方向に連なる傾向をみせて散在する散孔材。道管の穿孔は単一。放射組織は異性で 3～4 細胞幅、鞘細胞をもつ。

30. サクラ属 (広義) *Prunus* s.l. **バラ科** 図 5 : 30a-30c (樹皮、TKM-181)

横断面では潰れた接線方向に長い長方形の細胞が隙間無く並ぶ。接線断面では細長い紡錘形の細胞が水平方向に隙間無く配列する。放射断面では方形～長方形の細胞が密にあり成長輪がみえる。

31. タケ亜科? Subfam. *Bambusoideae*? イネ科 図5: 31a (樹皮、TKM-186)

厚壁の繊維に厚く覆われた維管束が柔組織の中に散在しているように見えるが、保存状態が悪く詳細は確認できない。

4. 考察

庄・蔵本遺跡の第27次調査の旧河道 S263 から出土した木製品類では、共伴する土器型式から弥生時代前期末以前、弥生時代前期末・中期初頭、弥生時代前期末～中期、弥生時代前期末～終末期、弥生時代後期後半・終末期に区分して組成を検討した(表1)。その結果、時期による違いは認められず、鋤鍬にはイチイガシを中心とするアカガシ亜属が、容器にはクスノキやヒノキ、クワ属、アカガシ亜属が、建築材や板材等にはヒノキを中心として様々な樹種が選択されていたことが明らかになった。その他の木製品では、イヌガヤが弓に、ツバキ属が杵に、ヒノキが琴に、モミ属が楯に、ヒノキとイヌビワ、ケヤキが手斧柄に使われていた。

イチイガシを優先的に鋤鍬の素材として選択することは、関東地方で認められており(能城ほか, 2012)、同様の素材選択が庄・蔵本遺跡にも存在したことが確認できた。四国における弥生時代の素材選択では、アカガシ亜属の農耕土木具への多用や、クヌギ節とヒノキの施設材・器具材への多用などが目立つが、これまでに検討されている出土木材の点数は1000点ほどであり、このうち鋤鍬が150点、加工材が180点、垂木と柱がそれぞれ40～50点ほどを占めるなど(伊東・山田, 2012)、まだ四国における素材選択の傾向は不十分にしか把握できていない。庄・蔵本遺跡の資料は、なかでもイチイガシの鋤鍬への選択とヒノキの建築材等への多用を四国で示した点で重要である。

引用文献

伊東隆夫・山田昌久編. 2012. 木の考古学: 出土木製品用材データベース. 449pp. 海青社, 大津.

能城修一・佐々木由香・鈴木三男・村上由美子. 2012. 弥生時代から古墳時代の関東地方におけるイチイガシの木材資源利用. 植生史研究 21: 29-40.

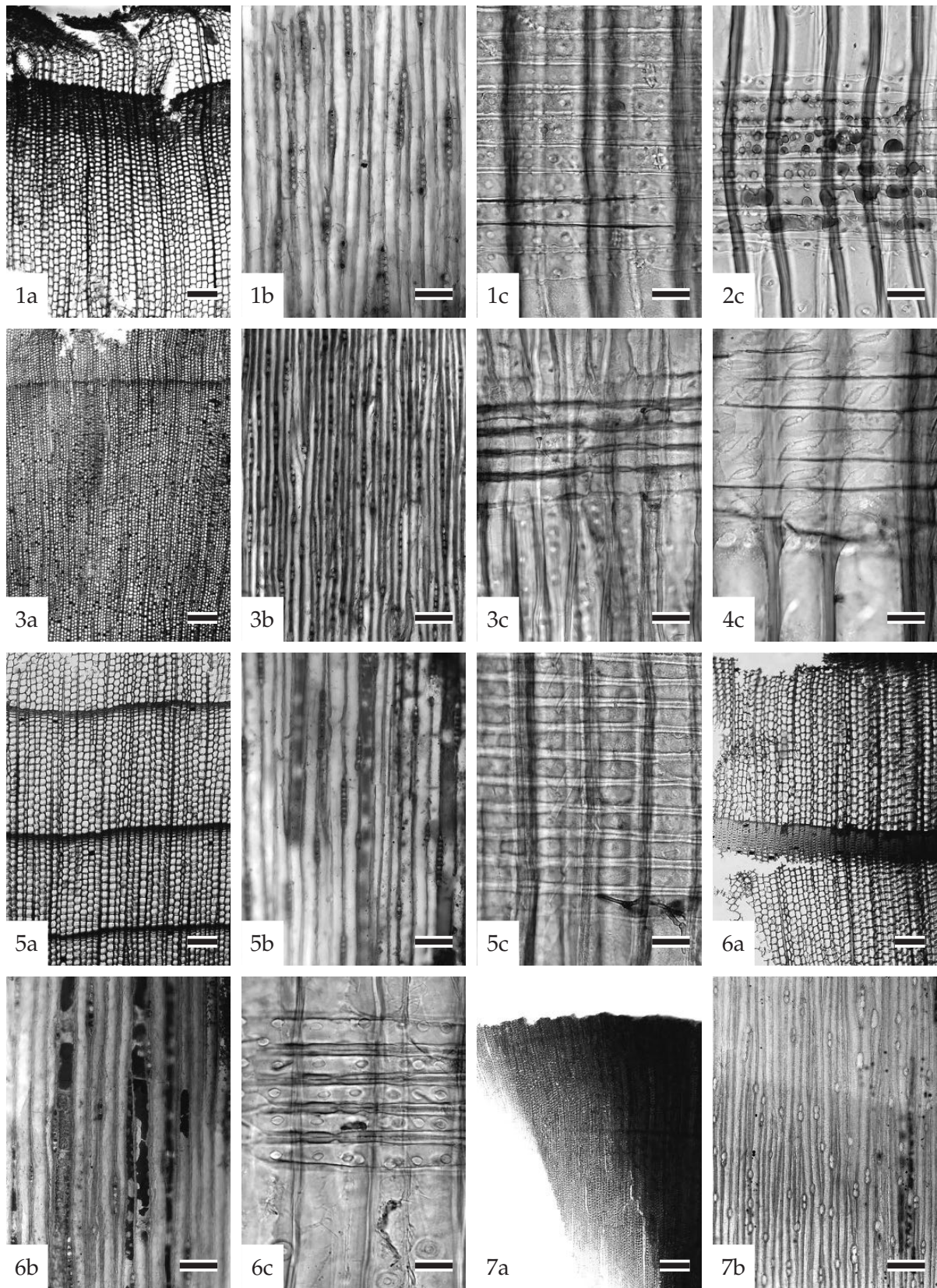


図1 庄・蔵本遺跡第27次調査出土木製品類の顕微鏡写真(1)

1a-1c: モミ属 (枝・幹材、TKM-112)、2c: ツガ属 (枝・幹材、TKM-69)、3a-3c: イヌマキ属 (枝・幹材、TKM-53)、4c: コウヤマキ (枝・幹材、TKM-64)、5a-5c: ヒノキ (枝・幹材、TKM-37)、6a-6c: スギ (枝・幹材、TKM-38)、7a-7b: イヌガヤ (枝・幹材、TKM-51)。a: 横断面 (スケール= 200 μ m)、b: 接線断面 (スケール= 100 μ m)、c: 放射断面 (スケール= 25 μ m)。

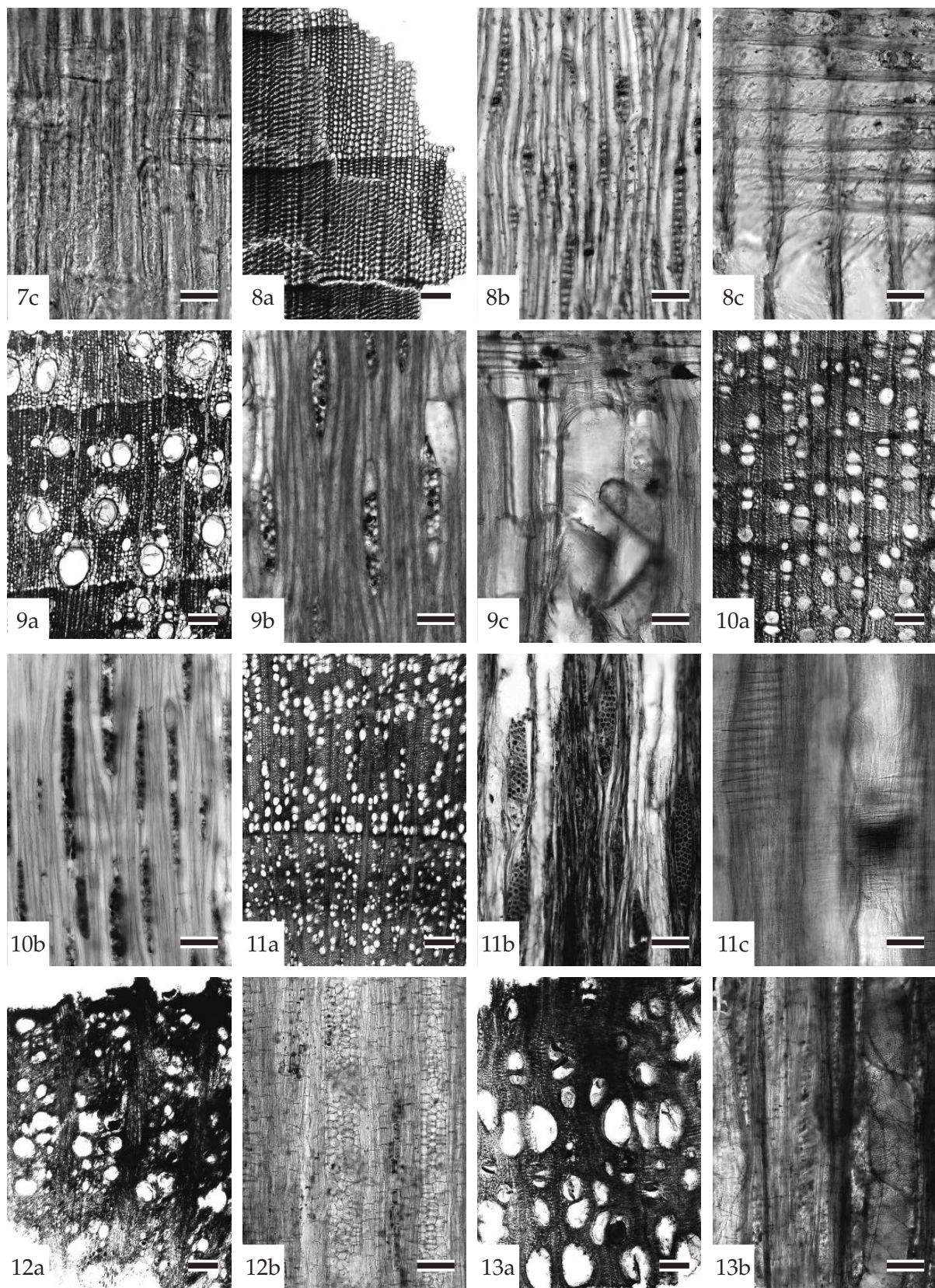


図2 庄・蔵本遺跡第27次調査出土木製品類の顕微鏡写真(2)

7c: イスガヤ (枝・幹材、TKM-51)、8a-8c: カヤ (枝・幹材、TKM-52)、9a-9c: クスノキ (枝・幹材、TKM-125)、10a-10b: クスノキ科 (枝・幹材、TKM-153)、11a-11c: サクラ属 (広義) (枝・幹材、TKM-98)、12a-12b: パラ属 (枝・幹材、TKM-89)、13a-13b: ケンポナシ属 (枝・幹材、TKM-63)。a: 横断面 (スケール= 200 μm)、b: 接線断面 (スケール= 100 μm)、c: 放射断面 (スケール= 25 (7c、8c)、50 μm)。

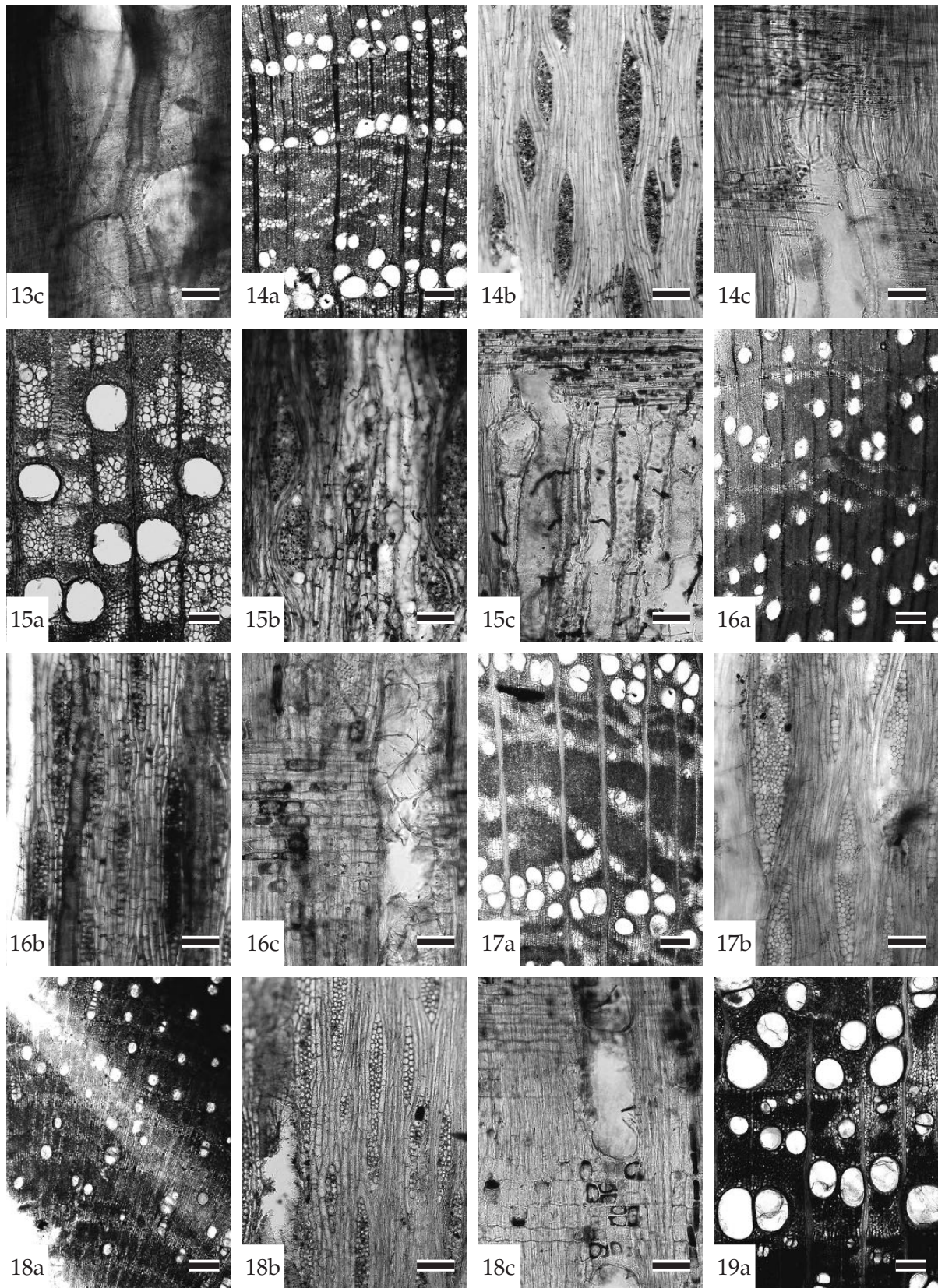


図3 庄・蔵本遺跡第27次調査出土木製品類の顕微鏡写真(3)

13c : ケンボナシ属 (枝・幹材、TKM-63)、14a-14c : ニレ属 (枝・幹材、TKM-121)、15a-15c : ケヤキ (枝・幹材、TKM-140)、
 16a-16c : ムクノキ (枝・幹材、TKM-91)、17a-17b : エノキ属 (枝・幹材、TKM-114)、18a-18c : イヌビワ (枝・幹材、TKM-138)、
 19a : クワ属 (枝・幹材、TKM-163)。a : 横断面 (スケール= 200 μ m)、b : 接線断面 (スケール= 100 μ m)、c : 放射断面 (スケール= 50 μ m)。

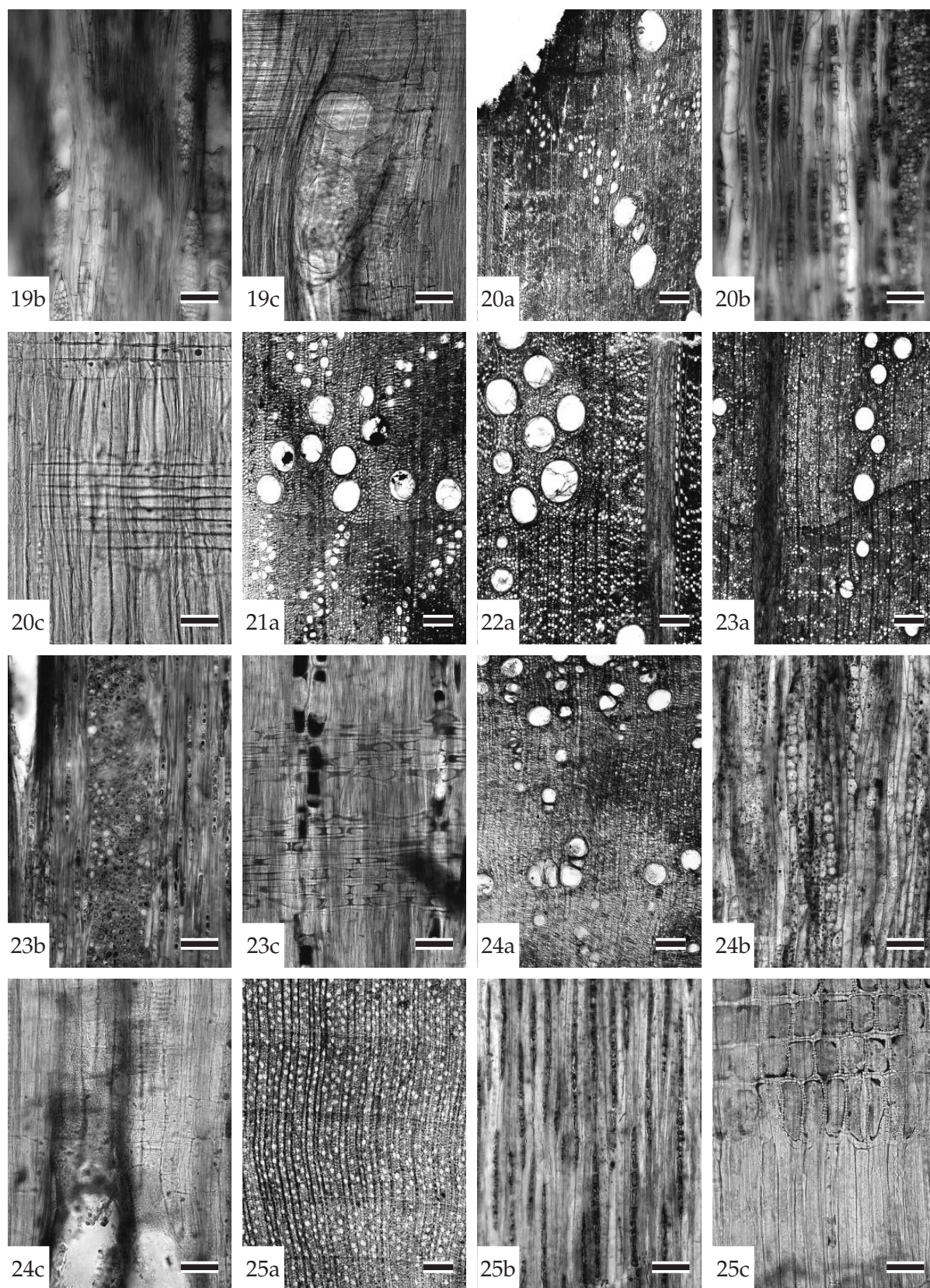


図 4 庄・蔵本遺跡第 27 次調査出土木製品類の顕微鏡写真 (4)

19b-19c : クワ属 (枝・幹材、TKM-163)、20a-20c : ツブラジイ (枝・幹材、TKM-118)、21a : スダジイ (枝・幹材、TKM-174)、22a : イチイガシ (枝・幹材、TKM-88)、23a-23c : コナラ属アカガシ亜属 (枝・幹材、TKM-49)、24a-24c : アカメガシワ (枝・幹材、TKM-116)、25a-25c : サカキ (枝・幹材、TKM-78)。a : 横断面 (スケール= 200 μm)、b : 接線断面 (スケール= 100 μm)、c : 放射断面 (スケール= 50 μm)。

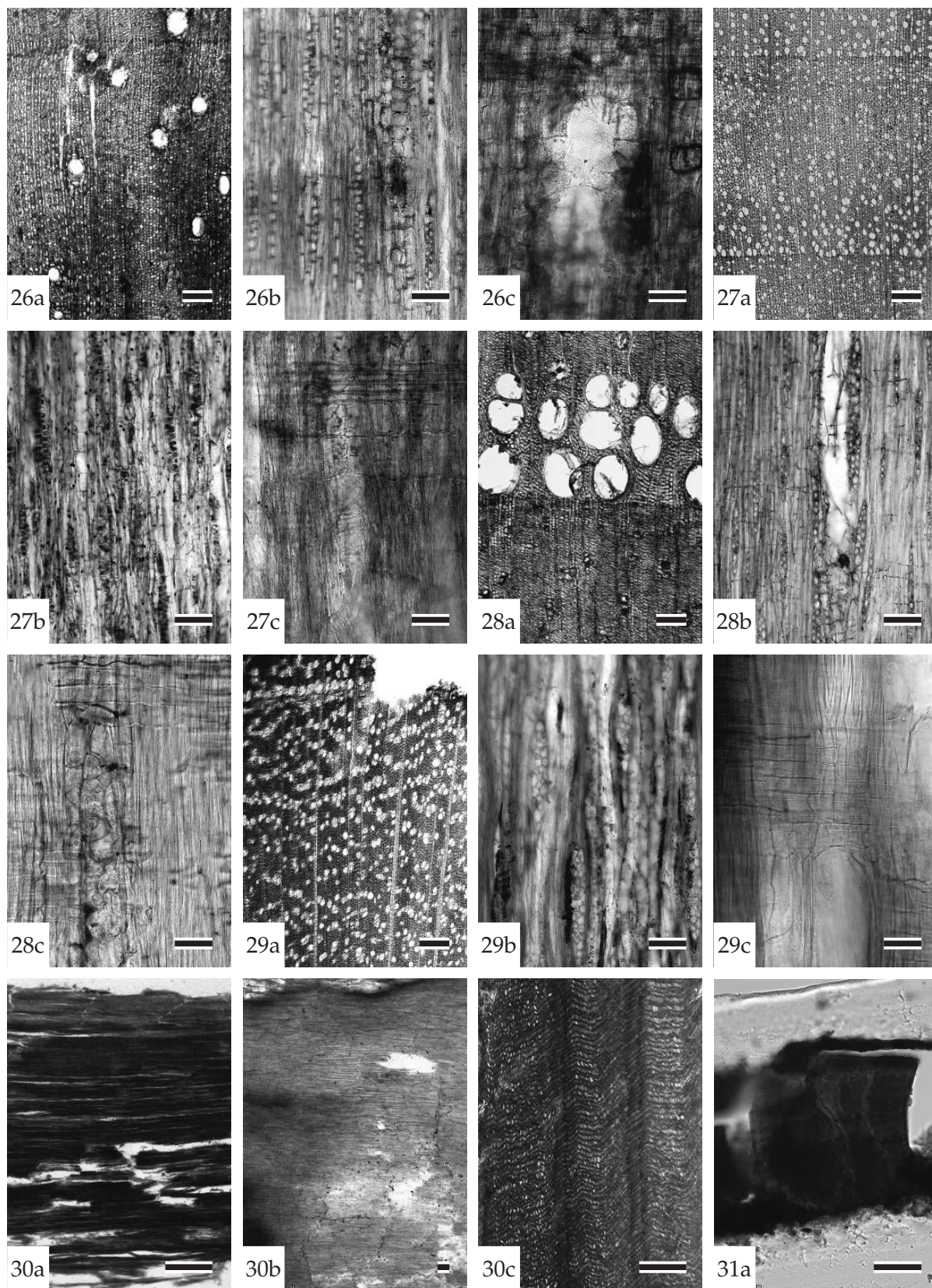


図5 庄・蔵本遺跡第27次調査出土木製品類の顕微鏡写真(5)

26a-26c: カキノキ属(枝・幹材、TKM-147)、27a-27c: ツバキ属(枝・幹材、TKM-66)、28a-28c: トネリコ属シオジ節(枝・幹材、TKM-132)、29a-29c: ニワトコ(枝・幹材、TKM-97)、30a-30c: サクラ属(広義)(樹皮、TKM-181)、31a: タケ亜科?(樹皮、TKM-186)。a: 横断面(スケール=200 μm)、b: 接線断面(スケール=100 μm)、c: 放射断面(スケール=50 μm)。

補 記

本稿では、能城修一氏らにより、庄・蔵本遺跡第 27 次調査から出土した 159 点の木製品類の樹種同定および器種・木取り等に関する分析結果が報告されている。

本調査地点の調査概要はすでに報告しているが（端野ほか 2015）、コンテナ 700 箱以上の遺物が出土し、現在も正式報告書の刊行に向け整理作業を進めている段階である。なかでも弥生時代前期～終末期の木製品類約 200 点が、極めて良好な状態で検出された点が特筆される。2014 年度に木製品類 25 点を選定し、保存処理および樹種同定を古環境研究所（現・文化財科学研究センター）に依頼した。その内容は本書別稿で報告されている（金原・田中 2017、渡邊・金原 2017、三阪 2017a）。今年度、これらを除く 159 点の木製品類について、能城氏・村上由美子氏らに樹種同定等にかかる調査・分析を依頼した。

これらの木製品類をいち早く活用・公開できるように、能城氏・村上氏らによる分析結果および発掘調査の所見を付表 1～6 にまとめた。木製品類の大半が出土した旧河道 S263 の時間的位置づけについては別稿で整理しており（三阪 2017b）、付表には遺構やその埋土の中心となる時期を記載している。表 1 の時期もこれにもとづく。ただし、旧河道 S263 埋土各層では、中心時期に前後する時期の土器群も少なからず含まれており（三阪 2017b）、木製品についても同様の時期幅を考慮しておく必要がある。このほかに、井戸 S1515 から木製品 1 点が検出されている。井戸埋土の底付近と下位から古墳時代中期から後期の土師器、中位から木製品が出土している。木製品の所属時期は土師器と同じかこれ以降と考えられる。

（三阪一徳）

文 献

- 端野晋平・三阪一徳・脇山佳奈・山口雄治，2015. 庄・蔵本遺跡第 27 次調査（立体駐車場地点）の成果. 国立大学法人徳島大学埋蔵文化財調査室紀要 1, 43-97.
- 金原裕美子・田中友貴恵，2017. トレハロース含浸法による木製品保存処理. 国立大学法人徳島大学埋蔵文化財調査室紀要 3, 45-53.
- 三阪一徳，2017a. 庄・蔵本遺跡第 27 次調査出土の木製品. 国立大学法人徳島大学埋蔵文化財調査室紀要 3, 29-44.
- 三阪一徳，2017b. 庄・蔵本遺跡の年代測定試料と炭化鱗茎付着土器. 国立大学法人徳島大学埋蔵文化財調査室紀要 3, 89-96.
- 渡邊英明・金原裕美子，2017. 庄・蔵本遺跡第 27 次調査出土木製品における樹種同定. 国立大学法人徳島大学埋蔵文化財調査室紀要 3, 55-65.

付表1 庄・蔵本遺跡第27次調査出土の木製品類一覧(1)

標本No.	樹種名	器種集計	器種	木取りほか	放射径	備考	遺構	調査区	グリッド	層位	出土遺構の中心時期*	整理No.	箱No.
TKM-30	クスノキ	容器	片口	横木取り			旧河道S263	西区	D-7	4層	弥生時代後期後半・終末期	21	14
TKM-31	ヒノキ	建築材	建築材	割材			旧河道S263	西区	E-7	3層	弥生時代後期後半・終末期	1	1
TKM-32	ヒノキ	板材	板材	板目			旧河道S263	西区	F-7	3層	弥生時代後期後半・終末期	4	1
TKM-33	モミ属	板材	板材	板目			旧河道S263	西区	F-8	3層	弥生時代後期後半・終末期	5	1
TKM-34	コナラ属アカガシ亜属	板材	板材	みかん割	15.5		旧河道S263	西区	F-8	3層	弥生時代後期後半・終末期	6	1
TKM-35	(同定不能)	建築材	栓	芯持材			旧河道S263	西区	F-10	3層	弥生時代後期後半・終末期	9	23
TKM-36	ヒノキ	建築材	栓	芯持材			旧河道S263	西区	G-5	3層	弥生時代後期後半・終末期	10	1
TKM-37	ヒノキ	建築材	建築材?	板目			旧河道S263	西区	D-6	4層	弥生時代後期後半・終末期	11	1
TKM-38	スギ	板材	板材	板目			旧河道S263	西区	D-7	4層	弥生時代後期後半・終末期	22	1
TKM-39	ヒノキ	板材	板材	板目			旧河道S263	西区	D-7	4層	弥生時代後期後半・終末期	23	1
TKM-40	ヒノキ	板材	板材				旧河道S263	西区	D-7	4層	弥生時代後期後半・終末期	24	1
TKM-41	(同定不能)	建築材	栓(未成品)	芯持材			旧河道S263	西区	D-8・9	4層	弥生時代後期後半・終末期	26	2
TKM-42	(同定不能)	建築材	栓	芯持材			旧河道S263	西区	D-8・9	4層	弥生時代後期後半・終末期	27	2
TKM-43	ヒノキ	建築材	栓	半割材			旧河道S263	西区	D・E-8	4層	弥生時代後期後半・終末期	29	2
TKM-44	クワ属	容器	容器?	横木取り			旧河道S263	西区	E-8	4層	弥生時代後期後半・終末期	34	23
TKM-45	ヒノキ	板材	残材	芯持材		分枝の元の部位. 製材時の残りを捨てたもの.	旧河道S263	西区	E-8	4層	弥生時代後期後半・終末期	42	2
TKM-46	クスノキ	板材	不明	板目		41(TKM-54)と接合. 2回サンプリング.	旧河道S263	西区	E-8	4層	弥生時代後期後半・終末期	45	2
TKM-47	ヒノキ	建築材	建築材?	割材. 年輪密. 辺材はなし.		焦げ目.	旧河道S263	西区	D・E-8	4層	弥生時代後期後半・終末期	30	2
TKM-48	ヒノキ	建築材	栓	芯持材			旧河道S263	西区	D-8・9	4層	弥生時代後期後半・終末期	28	2
TKM-49	コナラ属アカガシ亜属	鋤	一木鋤	柱目	11.0		旧河道S263	西区	E-8	4層	弥生時代後期後半・終末期	46	2
TKM-50	ヒノキ	容器	曲物-底部?	板目			旧河道S263 南北トレンチ	西区	F-7	3層	弥生時代後期後半・終末期	3	2
TKM-51	イヌガヤ	弓	弓	芯持丸木			旧河道S263	西区	E-6・7	4層	弥生時代後期後半・終末期	31	2
TKM-52	カヤ	建築材	建築材	割材		焦げ目.	旧河道S263	西区	E-8	4層	弥生時代後期後半・終末期	38	2
TKM-53	イヌマキ属	他製品	弓?	芯持丸木			旧河道S263	西区	E-8	4層	弥生時代後期後半・終末期	40	2
TKM-54	クスノキ	鋤	鋤	板目		45(TKM-46)と接合. 2回サンプリング.	旧河道S263	西区	E-8	4層	弥生時代後期後半・終末期	41	2
TKM-55	イヌマキ属	棒	棒材	芯持丸木			旧河道S263	西区	E-8	4層	弥生時代後期後半・終末期	43	2
TKM-56	コナラ属アカガシ亜属	鋤	又鋤?	柱目		又鋤の歯の一部?	旧河道S263	西区	E-8	4層	弥生時代後期後半・終末期	44	2
TKM-57	サクラ属(広義)	容器	容器	横木取り		47と同一個体?	旧河道S263	西区	E-9	4層	弥生時代後期後半・終末期	48, (47)	23
TKM-58	コナラ属アカガシ亜属	鋤	又鋤	柱目	12.0		旧河道S263	西区	E-8	4層	弥生時代後期後半・終末期	36	3
TKM-59	ヒノキ	容器	槽	板目			旧河道S263	西区	E-8	4層	弥生時代後期後半・終末期	37	3
TKM-60	ヒノキ	建築材	栓	芯持材			旧河道S263	西区	F-5	4層	弥生時代後期後半・終末期	58	3

付表2 庄・蔵本遺跡第27次調査出土の木製品類一覧(2)

標本No.	樹種名	器種集計	器種	木取りほか	放射径	備考	遺構	調査区	グリッド	層位	出土遺構の中心時期*	整理No.	箱No.
TKM-61	ヒノキ	加工木	杭?	割材			旧河道S263 トレンチ	西区	F-5	4層	弥生時代後期 後半・終末期	57	4
TKM-62	コナラ属アカ ガシ亜属	鋤鎌	鎌	板目		61と62(ともに TKM-62)は接合。 サンプリング1つの み。	旧河道S263	西区	F-7	4層	弥生時代後期 後半・終末期	61, 62	4
TKM-63	ケンボナシ属	加工木	容器?	横木取り			旧河道S263	西区	F-7	4層	弥生時代後期 後半・終末期	65	4
TKM-64	コウヤマキ	板材	不明	板目、年輪 密、辺材?			旧河道S263	西区	F-8	4層	弥生時代後期 後半・終末期	68	4
TKM-65	コナラ属アカ ガシ亜属	農具原材	農具原材	柱目	14.0	69(TKM-70)と接 合?	旧河道S263	西区	F-8	4層	弥生時代後期 後半・終末期	70	4
TKM-66	ツバキ属	他製品	不明	半割削出	15.0	農具ではない。	旧河道S263	東区	E-11	4層	弥生時代後期 後半・終末期	52	23
TKM-67	コナラ属アカ ガシ亜属	鋤鎌	鎌(未成 品)	柱目			旧河道S263	東区	E-12	4層	弥生時代後期 後半・終末期	53	23
TKM-68	ヒノキ	建築材	柱(未成 品)?	芯持材		杵ではない。焦げ 目。	旧河道S263	西区	F-5	4層	弥生時代後期 後半・終末期	55	4
TKM-69	ツガ属	加工木	割材	半割材?		自然木ではなく人 が割っている。	旧河道S263	西区	F-5	4層	弥生時代後期 後半・終末期	56	4
TKM-70	イチイガシ?	農具原材	農具原材		13.5	70(TKM-65)と接 合?。	旧河道S263	西区	F-8	4層	弥生時代後期 後半・終末期	69	4
TKM-71	コナラ属アカ ガシ亜属	鋤鎌	曲柄鎌?	柱目		曲柄鎌の軸部?	旧河道S263	西区	F-8	4層	弥生時代後期 後半・終末期	71	23
TKM-72	コナラ属アカ ガシ亜属	工具	斧-直柄?	板目、割 材。			旧河道S263	西区	F-8	4層	弥生時代後期 後半・終末期	72	23
TKM-73	コナラ属アカ ガシ亜属	鋤鎌	農具	柱目		農具の一部。	旧河道S263	西区	F-8	4層	弥生時代後期 後半・終末期	73	23
TKM-74	イヌガヤ	容器	縦杓子?	芯持材。縦 木取り。		縦杓子の一部?	旧河道S263	西区	F-7	4層	弥生時代後期 後半・終末期	63	23
TKM-75	コナラ属アカ ガシ亜属	容器	容器?				旧河道S263	西区	F-9・ 10	4層	弥生時代後期 後半・終末期	81	23
TKM-76	クスノキ	板材	板材	板目			旧河道S263	西区	F・G- 9・10	4層	弥生時代後期 後半・終末期	87	23
TKM-77	イチイガシ?	農具原材	農具原材	柱目	20.0		旧河道S263	西区	F-8	4層	弥生時代後期 後半・終末期	75	5
TKM-78	サカキ	棒	棒材	芯持丸木			旧河道S263	西区	F-9・ 10	4層	弥生時代後期 後半・終末期	86	5
TKM-79	ヒノキ	加工木	杭?	板目			旧河道S263	西区	F-9	4層	弥生時代後期 後半・終末期	79	5
TKM-80	ヒノキ	板材	板材	柱目			旧河道S263	西区	F-9・ 10	4層	弥生時代後期 後半・終末期	82	5
TKM-81	サカキ	棒	棒材	芯持丸木		83と85(ともに TKM-81)は接合。	旧河道S263	西区	F-9・ 10	4層	弥生時代後期 後半・終末期	83, (85)	5
TKM-82	サカキ	棒	棒材	芯持丸木		83と85(ともに TKM-81)は同一個 体とみられるが、 接合には至らず。	旧河道S263	西区	F-9・ 10	4層	弥生時代後期 後半・終末期	84	5
TKM-83	ヒノキ	他製品	不明	板目			旧河道S263	西区	G-6	4層	弥生時代後期 後半・終末期	91	23
TKM-84	ヒノキ	建築材	柱?			小型の柱?	旧河道S263	西区	G-6	4層	弥生時代後期 後半・終末期	93	23
TKM-85	ケヤキ	建築材	柱?	芯持材			旧河道S263	西区	G-7	4層	弥生時代後期 後半・終末期	103	23
TKM-86	クスノキ	容器	容器?	横木取り			旧河道S263 南北トレン チ	西区	H-3	4層以 下	弥生時代前期 末~終末期	108	6
TKM-87	クスノキ	容器	容器	芯持材。横 木取り。			旧河道S263	西区	F-6	4・5 層	弥生時代前期 末~終末期	124	6
TKM-88	イチイガシ	鋤鎌	組合せ式鋤 -身	柱目	17.5		旧河道S263	東区	南壁	4・5 層	弥生時代前期 末~終末期	126	6
TKM-89	バラ属	加工木	木端?	なし			旧河道S263	東区	南壁	4・5 層	弥生時代前期 末~終末期	129	6
TKM-90	クワ属	棒	棒材	芯持丸木		加工はみられず。	旧河道S263	西区	G-6	4層	弥生時代後期 後半・終末期	95	5

付表3 庄・蔵本遺跡第27次調査出土の木製品類一覧(3)

標本No.	樹種名	器種集計	器種	木取りほか	放射径	備考	遺構	調査区	グリッド	層位	出土遺構の中心時期*	整理No.	箱No.
TKM-91	ムクノキ	棒	棒材	芯持丸木、樹皮つき。		枝落としの痕跡あり。	旧河道S263	西区	G-6	4層	弥生時代後期後半・終末期	96	6
TKM-92	モミ属	棒	棒材	割材削出			旧河道S263	西区	G-6	4層	弥生時代後期後半・終末期	97	6
TKM-93	スギ	板材	板材	板目			旧河道S263	西区	G-6	4層	弥生時代後期後半・終末期	98	6
TKM-94	ヒノキ	建築材	柱	芯持丸木			旧河道S263	西区	G-3	4層	弥生時代後期後半・終末期	89	6
TKM-95	スギ	板材	板材	柱目			旧河道S263 南北トレンチ	西区	G-5	4層以下	弥生時代前期末~終末期	105	6
TKM-96	ヒノキ	建築材	柱(未成品)	芯持丸木			旧河道S263	西区	G-3	4層	弥生時代後期後半・終末期	88	6
TKM-97	ニワトコ	棒	棒材	芯持丸木			旧河道S263	西区	F-6	4・5層	弥生時代前期末~終末期	123	6
TKM-98	サクラ属(広義)	棒	棒材	芯持丸木			旧河道S263	東区	南壁	4・5層	弥生時代前期末~終末期	127	6
TKM-99	ヒノキ	容器	槽	横木取り、板目。			旧河道S263	東区	南壁	4・5層	弥生時代前期末~終末期	128	6
TKM-100	クスノキ	板材	板材	板目			旧河道S263	東区	南壁	4・5層	弥生時代前期末~終末期	130	6
TKM-101	クスノキ	加工木	不明	板目		農具ではない。	旧河道S263	東区	南壁	4・5層	弥生時代前期末~終末期	131	24
TKM-102	ヒノキ	建築材	建築材	板目		焦げ目。	旧河道S263	西区	G-6	4層	弥生時代後期後半・終末期	99	7
TKM-103	コウヤマキ	板材	板材	板目			旧河道S263	東区	F-11	4B層	弥生時代後期後半・終末期	114	7
TKM-104	ヒノキ	工具	すり台?	半割材			旧河道S263 南壁側溝	西区	H-1・2	4層以下	弥生時代前期末~終末期	107	7
TKM-105	イチイガシ	鋤鎌	又鎌	柱目			旧河道S263	東区	F-12	4B層	弥生時代後期後半・終末期	115	24
TKM-106	ヒノキ	板材	板材	板目			旧河道S263	東区	E-10	4B層	弥生時代後期後半・終末期	110	7
TKM-107	ヒノキ	他製品	不明	板目			旧河道S263	東区	E-11	4B層以下	弥生時代前期末~終末期	117	7
TKM-108	カキノキ属	棒	棒材	芯持丸木			旧河道S263	西区	F・G-4	5層	弥生時代前期末~中期	140	8
TKM-109	ヒノキ	板材	板材	板目			旧河道S263 南側溝	-	-	5層以下	弥生時代前期末~中期	141	8
TKM-110	(同定不能)	他製品	弓?	芯持丸木			旧河道S263	西区	F-8	5・6層	弥生時代前期末~中期	150	8
TKM-111	ヒノキ	加工木	脚?	芯持削出			旧河道S263	西区	D-8	6層	弥生時代前期末・中期初頭	162	8
TKM-112	モミ属	楯	楯	板目		144は2個体(TKM-112・113)含む。	旧河道S263	東区	F-10・11	5・6上層相当	弥生時代前期末~中期	144	8
TKM-113	ツブラジイ	棒	棒材	芯なし削出		144は2個体(TKM-112・113)含む。	旧河道S263	東区	F-10・11	5・6上層相当	弥生時代前期末~中期	144	8
TKM-114	エノキ属	棒	棒材	芯持丸木、樹皮つき。			旧河道S263	西区	E-8	5・6層	弥生時代前期末~中期	145	24
TKM-115	(同定不能)	加工木	不明	板目		板に加工した形跡はみられず。	旧河道S263	西区	F-8	5・6層	弥生時代前期末~中期	151	24
TKM-116	アカメガシワ	自然木	自然木	芯持丸木、又木、樹皮つき。			旧河道S263	西区	F・G-3	6層	弥生時代前期末・中期初頭	166	8
TKM-117	ヒノキ	板材	板材	板目			旧河道S263	東区	F-11	5・6層	弥生時代前期末~中期	161	24
TKM-118	ツブラジイ	板材	板材	柱目	12.5		旧河道S263	東区	F-10・11	5・6上層相当	弥生時代前期末~中期	142	24
TKM-119	ヒノキ	棒	棒材	割材削出			旧河道S263	東区	F-10・11	5・6上層相当	弥生時代前期末~中期	143	8
TKM-120	ヒノキ	加工木	杭?	柱目			旧河道S263	西区	F-8	5・6層	弥生時代前期末~中期	152	8

付表4 庄・蔵本遺跡第27次調査出土の木製品類一覧(4)

標本No.	樹種名	器種集計	器種	木取りほか	放射径	備考	遺構	調査区	グリッド	層位	出土遺構の中心時期*	整理No.	箱No.
TKM-121	ニレ属	建築材	棒材	芯持丸木		158と159(ともにTKM-121)は接合。159はサンプルとらず。	旧河道S263	東区	F-10・11	5・6層	弥生時代前期末～中期	158, (159)	8
TKM-122	ヒノキ	建築材	栓	割材			旧河道S263	西区	F・G-4	6層	弥生時代前期末・中期初頭	167	9
TKM-123	クワ属	容器	容器	横木取り			旧河道S263	西区	F-6	7層	弥生時代前期末・中期初頭	171	9
TKM-124	ヒノキ	建築材	栓	芯持丸木			旧河道S263	東区	南壁	-	弥生時代前期末～終末期	181	9
TKM-125	クスノキ	容器	容器もしくは蓋?	横木取り			旧河道S263	西区	G-4	6層	弥生時代前期末・中期初頭	169	9
TKM-126	ツブラジイ	板材	板材	柱目			旧河道S263	東区	南壁	-	弥生時代前期末～終末期	185	9
TKM-127	クワ属	加工木	割材	半割材		農具ではない。	旧河道S263	東区	南壁	-	弥生時代前期末～終末期	186	9
TKM-128	コナラ属アカガシ亜属	農具原材	農具原材?	柱目	10.5		旧河道S263	西区	F-8	7層	弥生時代前期末・中期初頭	174	9
TKM-129	ツバキ属	杵	杵	芯持丸木			旧河道S263	西区	G-5	7層	弥生時代前期末・中期初頭	175	24
TKM-130	クスノキ	鋤鎌	農具(未成品)?	板目			旧河道S263	東区	南壁	4・5層	弥生時代前期末～終末期	125	11
TKM-131	トネリコ属シオジ節	自然木	自然木	芯持丸木		120(TKM-132)と同一個体とみられる。接合は確認できず。	旧河道S263	西区	F-6	4・5層	弥生時代前期末～終末期	121	10
TKM-132	トネリコ属シオジ節	自然木	自然木			121(TKM-131)と同一個体とみられる。接合は確認できず。	旧河道S263	西区	F-6	4・5層	弥生時代前期末～終末期	120	10
TKM-133	クスノキ	工具	すり台?	芯持丸木		又木のかたい部分を選んで使用。	旧河道S263	西区	F-6	4・5層	弥生時代前期末～終末期	122	11
TKM-134	ヒノキ	他製品	琴	板目			旧河道S263	西区	E-8	4層	弥生時代後期後半・終末期	35	13
TKM-135	クワ属	容器	四脚合子蓋	横木取り。板目。			旧河道S263	西区	E-7	4層	弥生時代後期後半・終末期	33	14
TKM-136	(同定不能)	他製品	ヤス?	芯持丸木			旧河道S263	西区	F-7	4層	弥生時代後期後半・終末期	66	14
TKM-137	ヒノキ	他製品	剣形?	板目		孔は節の抜けたところを利用。	旧河道S263	西区	E-9	4層	弥生時代後期後半・終末期	50	14
TKM-138	イヌビワ	工具	手斧柄	芯持削出		112は計4個体含む。3点(TKM-138・139・140)をサンプリング。残り1点はヒョウタン。	旧河道S263	東区	E-10	4B層	弥生時代後期後半・終末期	112	14
TKM-139	ヒノキ	他製品	ヤス?	割材削出		112は計4個体含む。3点(TKM-138・139・140)をサンプリング。残り1点はヒョウタン。	旧河道S263	東区	E-10	4B層	弥生時代後期後半・終末期	112	14
TKM-140	ケヤキ	板材	板材	板目		112は計4個体含む。3点(TKM-138・139・140)をサンプリング。残り1点はヒョウタン。	旧河道S263	東区	E-10	4B層	弥生時代後期後半・終末期	112	14
TKM-141	イチイガシ	鋤鎌	狭鎌	柱目			旧河道S263	西区	G-6	4層	弥生時代後期後半・終末期	102	14
TKM-142	イチイガシ?	鋤鎌	広鎌	板目			旧河道S263	西区	E-7	5層	弥生時代前期末～中期	135	14
TKM-143	エノキ属	板材	板材	板目。樹皮つき。		製材時の残材?	旧河道S263	西区	E-7	5層	弥生時代前期末～中期	135	14
TKM-144	イチイガシ	鋤鎌	小型鎌	柱目	10.5		旧河道S263	西区	E-8	7層	弥生時代前期末・中期初頭	170	14
TKM-145	モミ属	楯	楯	板目		顔料の付着はみられない。	旧河道S263	-	南壁	-	弥生時代前期末～終末期	183	14

付表5 庄・蔵本遺跡第27次調査出土の木製品類一覧(5)

標本No.	樹種名	器種集計	器種	木取りほか	放射径	備考	遺構	調査区	グリッド	層位	出土遺構の中心時期*	整理No.	箱No.
TKM-146	イチイガシ	鋤鎌	広鎌-身	証目	13.3	148は広鎌の身(TKM-146)と柄(TKM-147)が着柄状態で検出.	旧河道S263	西区	E-8	5・6層	弥生時代前期末~中期	148	14
TKM-147	カキノキ属	鋤鎌	広鎌-柄	芯なし削出		148は広鎌の身(TKM-146)と柄(TKM-147)が着柄状態で検出.	旧河道S263	西区	E-8	5・6層	弥生時代前期末~中期	148	14
TKM-148	クスノキ	容器	容器	芯持材. 縦木取り.			旧河道S263	西区	D-6	4層	弥生時代後期後半・終末期	12	15
TKM-149	ヒノキ	板材	板材	板目			旧河道S263	西区	E-7	4層	弥生時代後期後半・終末期	32	15
TKM-150	ケヤキ	他製品	不明	証目		輪状を呈する.	旧河道S263	西区	D-7	4層	弥生時代後期後半・終末期	25	16
TKM-151	クワ属	容器	鉢	横木取り			旧河道S263	西区	F-9	4層	弥生時代後期後半・終末期	80	16
TKM-152	クスノキ	他製品	不明	板目			旧河道S263	西区	G-6	4層	弥生時代後期後半・終末期	92	17
TKM-153	クスノキ科	容器	蓋?	板目			旧河道S263	東区	E-10	4B層	弥生時代後期後半・終末期	111	17
TKM-154	クワ属	他製品	不明	削出		弓ではない.	旧河道S263	西区	G-6	4層	弥生時代後期後半・終末期	100	17
TKM-155	ヒノキ	板材	板材	証目			旧河道S263	西区	G-6	4層	弥生時代後期後半・終末期	101	17
TKM-156	ヒノキ	建築材	栓	芯持丸木			旧河道S263	西区	G-7	4層	弥生時代後期後半・終末期	104	17
TKM-157	クスノキ	容器	容器-槽?	横木取り. 板目.			旧河道S263	西区	E-5	5層	弥生時代前期末~中期	132	18
TKM-158	ヒノキ	建築材	栓	割材削出			旧河道S263	西区	F-7	7層	弥生時代前期末・中期初頭	173	19
TKM-159	ヒノキ	容器	曲物-底部?	証目		釘孔が側面にあり.	攪乱(ため池)	西区	B・C-6~8	4層	不明(古代~近世?)	189	19
TKM-160	ヒノキ	他製品	不明	板目			旧河道S263	西区	G-4	4層	弥生時代後期後半・終末期	90	20
TKM-161	ヒノキ	板材	板材	証目			旧河道S263	西区	F-9	5・6層	弥生時代前期末~中期	153	20
TKM-162	スダジイ	容器	槽	芯持材. 横木取り.	5.0		旧河道S263	-	南壁	-	弥生時代前期末~終末期	184	20
TKM-163	クワ属	他製品	不明	横木取り			旧河道S263	西区	G-6	4層	弥生時代後期後半・終末期	94	20
TKM-164	クワ属	容器	取手付容器(ジョッキ)	芯なし削出. 縦木取り.		109は2個体(TKM-164・165)含む.	旧河道S263	西区	H-3	4層以下	弥生時代前期末~終末期	109	20
TKM-165	(同定不能)	建築材	栓	芯持丸木		109は2個体(TKM-164・165)含む.	旧河道S263	西区	H-3	4層以下	弥生時代前期末~終末期	109	20
TKM-166	クスノキ	容器	容器	横木取り			旧河道S263	西区	F-8	4層	弥生時代後期後半・終末期	67	21
TKM-167	クワ属	建築材	建築材	芯持丸木			旧河道S263	東区	F-10・11	5・6層	弥生時代前期末~中期	160	12
TKM-168	(同定不能)	加工木	木片	証目		多数の破片のうち1点をサンプリング.	井戸S1515	東区	B-12	14層	古墳時代中・後期~	190	9
TKM-169	ヒノキ	建築材	栓	芯持丸木			旧河道S263	西区	F-7	7層	弥生時代前期末・中期初頭	172	9
TKM-170	ヒノキ	加工木	角材	割材			旧河道S263	東区	南壁	7層以下	弥生時代前期末・中期初頭以前	178	12
TKM-171	イチイガシ	板材	板材	証目	17.5		旧河道S263	東区	南壁	-	弥生時代前期末~終末期	180	12
TKM-172	ヒノキ	板材	板材	板目			旧河道S263南壁側溝	西区	G-6	4層以下	弥生時代前期末~終末期	106	12
TKM-173	ヒノキ	板材	板材	板目		焦げ目.	旧河道S263	西区	G-6	7層	弥生時代前期末・中期初頭	177	12
TKM-174	スダジイ	加工木	角材				旧河道S263	東区	南壁	7層以下	弥生時代前期末・中期初頭以前	179	12

付表6 庄・蔵本遺跡第27次調査出土の木製品類一覧(6)

標本No.	樹種名	器種集計	器種	木取りほか	放射径	備考	遺構	調査区	グリッド	層位	出土遺構の中心時期*	整理No.	箱No.
TKM-175	ヒノキ	建築材	建築材	半割材		焦げ目.	旧河道S263	西区	G-4	6層	弥生時代前期末・中期初頭	168	12
TKM-176	ヒノキ	建築材	建築材	柱目			旧河道S263	西区	E-9・10	5・6層	弥生時代前期末～中期	149	12
TKM-177	ヒノキ	建築材	建築材?	半割材. 年輪方向の分割.		湾曲しているが, 舟にしてはカーブがきつすぎる. 年代測定試料番号PLD-30022(伊藤ほか2017).	旧河道S263	西区	E-8	4層	弥生時代後期後半・終末期	39	12
TKM-178	サクラ属(広義)樹皮	樹皮	樹皮紐				旧河道S263	西区	E-9	3層	弥生時代後期後半・終末期	2	22
TKM-179	サクラ属(広義)樹皮	樹皮	樹皮素材				旧河道S263	西区	F-8	4層	弥生時代後期後半・終末期	74	22
TKM-180	サクラ属(広義)樹皮	樹皮	樹皮素材				旧河道S263	東区	E-10	4層	弥生時代後期後半・終末期	51	22
TKM-181	サクラ属(広義)樹皮	樹皮	樹皮素材				旧河道S263	東区	南壁	-	弥生時代前期末～終末期	187	22
TKM-182	サクラ属(広義)樹皮	樹皮	樹皮素材				旧河道S263 トレンチ	東区	E・F-10	4B層以下	弥生時代前期末～終末期	119	22
TKM-183	サクラ属(広義)樹皮	樹皮	樹皮素材				旧河道S263	東区	E-11	4B層以下	弥生時代前期末～終末期	116	22
TKM-184	サクラ属(広義)樹皮	樹皮	樹皮素材				旧河道S263	西区	E-7	5層	弥生時代前期末～中期	133	22
TKM-185	サクラ属(広義)樹皮	樹皮	樹皮素材?				旧河道S263	東区	南壁	-	弥生時代前期末～終末期	182	22
TKM-186	タケ亜科?	編組製品	編み籠			編み籠-縦.	旧河道S263	西区	F-6	4層	弥生時代後期後半・終末期	59	22
TKM-187	タケ亜科?	編組製品	編み籠			編み籠-横.	旧河道S263	西区	F-6	4層	弥生時代後期後半・終末期	59	22
TKM-188	サクラ属(広義)樹皮	樹皮	樹皮素材				旧河道S263	東区	南壁	-	弥生時代前期末～終末期	188	22
同定対象外	ヒョウタン?						旧河道S263	東区	E-11	4B層	弥生時代後期後半・終末期	113	24
同定対象外	ヒョウタン?						旧河道S263 トレンチ	東区	E・F-10	4B層以下	弥生時代後期後半・終末期	118	24
同定対象外	ヒョウタン?					赤色顔料付着.	旧河道S263	西区	E-7	5層	弥生時代前期末～中期	134	24
同定対象外	ヒョウタン?						旧河道S263	西区	F-7	5層	弥生時代前期末～中期	136	24
同定対象外	サルノコシカケ?						旧河道S263	東区	F-10	5・6層	弥生時代前期末～中期	154	19
同定対象外	サルノコシカケ?						旧河道S263	東区	F-10	5・6層	弥生時代前期末～中期	155	19
同定対象外	サルノコシカケ?						旧河道S263	東区	F-10	5・6層	弥生時代前期末～中期	156	19
同定対象外	サルノコシカケ?						旧河道S263	東区	F-10	5・6層	弥生時代前期末～中期	157	19
同定対象外	ヒョウタン?						旧河道S263	西区	G-5	7層	弥生時代前期末・中期初頭	176	9

*三阪2017bによる